

三〇〇。海上。通話訓練終リタル頃飛行機探知左一五〇度  
三二料感心ニ以右土遠ガカリ消滅  
四号艇ハ人力縦艇ハ故障箇所不明ナルヲメ艇輪ノ前ノ接合  
ヲ離脱シテ艇中央トナシ細長キ鉄釘ヲ浴田テテ縦艇ニ  
固定ス

昭和二〇年六月八日

〇三二二 飛行機 三七料感ニ 近ヅク 急速淺航  
一八四ハ 飛行機 左五〇度ニ 料感五 急速淺航  
二〇〇一 飛行機 右一六〇度ニ 料感一 右一八〇度ニ 料感四ニ  
急速淺航  
二二〇〇 海上

本日午後ヨリ自傷懸吊ヲ始メ 極メテ良好ナリ

### 海軍

昭和二〇年六月九日

〇三四 飛行機 右九〇度一五料感五 急速淺航  
通話訓練取止メ 同内整正備各艇異状ナシ  
二二一五 飛行機 左二〇度ニ 料感五 近ヅク 三四番「ゴント」  
故障ハタメ深サ十一ニテ露頂探信中ナリキ 直ニ進入  
「ハ」止故障復旧後 三四〇〇海上 淺航時間約二〇時間  
炭酸ガス含有量約四％  
自爆信管用電池検査 異状ナシ

昭和二〇年六月一日

四号艇 變流器故障 軸復ナカリシタメ 湿氣ヲ呼ビ軸承ノ「ゴ」  
抑ハ 登録レ廻転不能ニ陥リタルナリ 鏽ヲ拂拭シ 鈹油ヲ塗布  
シテ軸復メ代リニ「ゴ」バトリ塗り 防湿トス

之ニ徴スルモ 要流器ハ必ズ毎日一回廻転試験ヲ行フ必要アリ  
〇四〇〇ヨリ上甲板整備

〇四三九機航 二〇五ニ海上

昭和二〇年六月一日

〇三四五飛行機右九〇度六ニ料感三 遠態勢

〇四四五機航

本艦哨区ハ「サイパン」沖繩補給路上「サイパン」ヨリ約四〇〇哩ノ地区

ナルモ五日ニ方位測定ヲ受ケシ爲一時航路ヲ西ニ避ケタル由

所定ヨリ約一〇〇哩「サイパン」儋リノ哨区ニ就カントセリ然ルニ

「サイパン」ニ接近スルニ從ヒ敵ノ哨戒艦シキヲ加ヘ行動ニ危険

ヲ感ゼシ爲艦長ハ「ウルシ」沖繩補給路上ニ新哨区

ニ就カント決意セラレタリ 今ソノ途上 損傷艦艇ノ帰途

# 海軍

激撃隊等密カニ所發スル所ナリ

是夜進軍注意ヲ行ツテヨリ約一週間ヲ経タレバ會敵ニ備ヘ夜間

浮上中赤灯ヲ用ヒテ發動弁検査ヲ行フ各艇共發銃 調和弁

ノ異狀ヲ爲ス上慮セシム 尚本夜間整備ニ際シ赤灯ノ光達距離

測定ノ必要ヲ感ズ 電探及見張ノ能力ト睨ミ合セ 必中心ニ夜間

長時間整備ヲ行ヒ得レハナリ

昭和二〇年六月二日

今朝未明〇〇五〇頃電探飛行機二機ヲ捕捉 急速淺航ヲ行フ

日出没前後ニ敵機ヲ捕捉スルハ常例ナレドモ斯カルニ夜中ニ

然モ同時ニ二機捕捉セルハ從來ノ狀況ト此ニカ異リタルモノヲ暗示

ス 余ハ敵有力部隊ノ前路哨戒ト判断 艦長モ同意見ナリキ

但余ノ前路ニ。速哨戒説ニ對シ艦長ハ五〇哩説ヲ固持サレヌ

俄然一三。音源捕捉集團音感ニ鳴音アリ感度中左右一〇度  
 作圖ニ依レバ敵針概ネ三二〇度 沖繩音域ニ向テ新平ノ如シ  
 敵ノ前路哨戒ハ二〇〇カ至三〇〇。埋ト見ルヲ至當トホスガ如シ  
 晝食後再ビ音源捕捉時ニ一三三五 速力感度中略々前回  
 再ビ長蛇ヲ逸ス コノ際潜艦故障  
 新背区初ノ會敵 太イニ手答ハアリ 艦長曰ク「此處ハ太平洋  
 八尾張町ゲルト ゲニ然ラン哉」  
 聽音記錄左ノ如シ  
 第一回(一一二七——一二〇四)  
 一一二七 感一 左七五度

# 海軍

一一三三	〇	一	〇	八五
一一四〇	〇	〇	〇	八七
一一四二	〇	〇	〇	七五
一一四四	〇	〇	〇	二五
一一四七	〇	〇	〇	三〇
一一五〇	〇	〇	〇	三三
一一五三	〇	〇	〇	三六
一一五五	〇	〇	〇	三六
一一〇一	〇	〇	〇	三五
一一〇二	〇	〇	〇	三五

ニハ〇度ニ愛針  
 感度段々低下スル  
 感度中左右一〇度 感度段々上ル  
 左四〇度ニ特殊鳴音アリ  
 感度下リ勝  
 二三〇度ニ愛針  
 右一五度  
 立音源カスカ